

# 喬木第一小学校

全授業の指導者 東原 義訓 (信州大学名誉教授)

## 【授業 1】

算数科 2 学年 単元名「かけ算」

授業者 貝瀬 真奈

### 1 本時の主眼

文章に出てきた数字の順序に惑わされずに「□のいくつ分」を考えて式に表すことができる。

### 2 視聴覚機器の役割

- 授業初めのチャレンジタイムで、児童がツールの特徴を踏まえて学ぶ自立的な学習
- スプレッドシートに記入したふり返りを活用した、学びのつながりのある授業展開
- ロイロノートの共有ノートを活用した、多様な考えをつなげる構造化

### 3 授業の概要

文章に出てきた数字の順序に惑わされずに「□のいくつ分」を考えて式と説明をプリントに記入し、ロイロノートで友だちと考えを共有しながら根拠をもって立式、説明ができるようにする。



## 【授業 2】

算数科 4 学年 単元名「面積」

授業者 飯田 知大

### 1 本時の主眼

L 字型の複合図形の求め方の説明を通して、面積の公式を利用するためには、長方形や正方形に着目すればよいことに気づくことができる。

### 2 視聴覚機器の役割

- ふり返りやループリック(「観点」や「規準」を組み合わせた評価方法)が記入できるスプレッドシートを活用し、児童が目標を自己設定。学びのつながりのある授業展開にする。
- Canva を活用して、多様な考えの共有と協働的な学びによる考えの再構築
- インタラクティブスタディによる児童ごとの理解度の診断と個別最適な補充、学習方法を選んで学ぶ自立的な学習

### 3 授業の概要

L 字型の複合図形の 2 つの分割の求め方を説明してきた子どもたちが、補完の考え方の説明を考え、Canva で友だちと考えを共有して説明の共通点を見つけることを通して、面積の公式を利用するためには、長方形や正方形に着目すればよいことに気づけるようにする。



## 4 研究会の要点

- ① スプレッドシートに毎時間自分の振り返りを蓄積していくことで、今までの振り返りを見返して学習をつなげたり、自分に合った学びの方法を選び、自立的に学んだりすることができる。スプレッドシートやワークシートが整えられていること、毎時間同じ授業展開にしていることで、児童自ら考え、判断しながら意欲的に取り組めるようになっている。(2-2)
- ② ループリックを利用して、個人目標を設定して個人学習を追究していくことで、「前時のふり返りから本時の学びにつながり、追究を通して学びを積み重ね、最後に本時の学びとふり返りを書いて次時につなげる」ことができる。また、タブレットを通して友だちの学習の様子を確認することで、安心して自分の考えを再構築でき、さらに学習が進んでいく。授業では、子どもたちが自分で学習に取り組み、友だちと一緒にやる子、一人で追究していく子など、「自分に合った学びのスタイル」を選んで学習を進めていた。(4-2)

## 5 指導者の助言

自立した学習に自信を持ってない傾向にある子どもたちにとって、今回のような ICT を使った学習には以下のような 3 つの成果が見られる。

### ① チャレンジタイム・自己目標による成果

2 年生も 4 年生も、自己目標を立てて学習に臨んでいること、また自分に合った学習を選択できるようにしていることで、「早くやりたい」というつぶやきのように、学習意欲をより高めている姿が見られた。

### ② 学びのふり返りの蓄積による成果

自分がどのくらいできるようになったか視覚的に確認できる良さ。また以前学習したことをふり返り、ポイントを思い出し、新たな学びに生かす良さが、ふり返りの蓄積によって見られた。

### ③ 自分の考えをまとめ、見合って交流することによる成果

スプレッドシートやロイロノートなどで考えを友だちと共有し、交流し合うことで、他の友だちから問題解決の手がかりを得たり、友だちの考えと比較したりすることができる。これによって、全員が学びに参加できるといった成果が見られた。

## 6 今後の課題

- ・学年に応じた ICT 機器の有効活用を引き続き考えていく。入力方法や、スプレッドシートの活用、共有の仕方など、様々な観点からより学びにつながる選択をしていきたい。
- ・子どもが主体となる授業の検討を重ねていく。子ども自身に学びのつながりや、本時の学びを実感させる授業作りが必要である。
- ・授業で使った資料等を次年度も有効活用できるように、共有ドライブ等を活用して保存していく。
- ・より探究的な学びにつながるような ICT 機器の利活用を、単元計画、年間計画に明確にしていく。